取り組もう！
災害から子どもの命を守る防災教育

東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。

国の地震調査研究推進本部によると、津市が今後 30 年以内に震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率は 87.4%[注1]とされています。

学校・園の教職員は、大地震・津波等の災害は、近い将来必ず起こるという認識を持ち、災害から子どもの命を守る防災教育を積極的に、また、継続して進める必要があります。

このリーフレットでは、市内の学校・園における平成 24 年度の防災教育（防災訓練を含む）の実践を紹介します。各学校・園の取組の充実に役立ててください。

学校・園における防災教育のねらい

防災教育は、子どもに次の３つの力をつけることをねらいとし、各学校・園の学校安全計画に基づき、発達段階に応じて進めます。

１　災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。

２　災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。

３　自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

※文部科学省「『生きる力』をはぐくむ防災教育の展開」（平成１０年３月）から

それぞれのねらいに対応した防災教育の事例

防災ノートを用いた危険予測学習（香良洲小）

幼小中、地域合同の津波避難訓練における、中学生による避難誘導（南立誠幼、南立誠小、橋北中）

地域防災マップづくり（芸濃中）

注１　地震調査研究推進本部　「今後の地震動ハザード評価に関する検討 ～２０１１年・２０１２年における検討結果～」
http://www.jishin.go.jp/main/chousa/12_yosokuchizu/index.htm

香良洲地区における取組

香海中学校、香良洲小学校、浜っ子幼児園（香良洲幼稚園、香良洲保育園）では、文部科学省の実践的防災教育総合支援事業を活用して、三重大学の川口淳准教授や危機管理教育研究所の国崎信江危機管理アドバイザーの助言を受けながら防災教育の指導方法等の開発・普及に取り組みました。

香良洲地区は三角州の中にあり、津波避難が課題となっています。川口准教授から、避難場所及び避難経路を複数設定しておき、発災時に最適な選択を行うことが大切であるというアドバイスをいただき、訓練や学習に取り組んできました。

【浜っ子幼児園】

月ごとの目標を定めて毎月訓練をしています。4 月には避難訓練の意義を理解し、先生の指示で避難することから始めて、3 月には予告なしに訓練を行い、園児が自ら危険回避行動ができるよう計画的に取り組んでいます。また、12 月に国崎危機管理アドバイザーによる、大型絵本「そなえる」を使った防災教室を行いました。

津波避難訓練

保護者への引渡し訓練

絵本を使った防災教室

【香良洲小学校】

9 月に防災学習と緊急地震速報を用いた休憩時間中の避難訓練を行うとともに、10 月に全クラスが防災学習にかかる授業参観と保護者向け防災教室を行いました。また、1 月に幼児園と合同で、中学校へ津波避難訓練を行うとともに、地震体験車による地震体験、2 月に国崎危機管理アドバイザーによる防災教室を行いました。

防災カルタを使った防災の基礎知識の学習（2 年生）

防災すごろくを使った遊びをとおした防災学習（3 年生）

NPO によるバリアフリーの観点の防災学習（5 年生）

【香海中学校】

約 5km 離れた津高等技術学校までの全校避難訓練や理科、美術、技術家庭などの教科における防災学習、釜石市等をベンチマーキングした教頭による防災講話、生徒による校内の安全点検などに取り組むとともに、学習した成果を文化祭で全校生徒、保護者、地域の方に発表しました。また、地域の防災訓練に参加しました。

家庭科での非常持出袋の作成（2 年生）

文化祭での発表

地域の防災訓練

市内の学校・園の取組

今後の取組の重点
1　体験活動をともなう防災教育
2　地域の自主防災組織や関係機関と連携した防災教育

市内の学校・園では様々な取組が行われています。各学校・園の学校安全計画に基づく、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等での取組を進める中で、体験活動をともなう防災教育、地域の自主防災組織や防災関係機関と連携した防災教育を一層推進する必要があります。

【体験活動から被災地支援へ】

草生小学校では、平成 23 年度から、防災タウンウォッチング、防災マップづくりなどの学習に取り組んできました。平成 24 年度は、子どもたちは被災者へ思いを寄せ、被災地へうちわや義援金を送る取組に発展しました。

地区別の A3 サイズの防災マップは、スキャナを使ってパワーポイントのデータにして、地域での発表に使用

図工の授業で、メッセージをこめたうちわづくりを実施

義援金とうちわを日本赤十字社をとおして被災地へ送付

【保護者・地域と連携した取組】

東日本大震災の被災地では、日頃から地域と連携した取組を行っていた学校は、災害後の対応が円滑であったといいます。保護者や地域と連携した防災の取組を強化していく必要があります。

幼小中、地域合同の津波避難訓練（敬和幼、敬和小、東橋内中）

自主防災組織の方による登下校中の危険箇所と避難場所の確認（安東小）

自衛隊を講師に迎えた地域との合同防災訓練（栗真小）

【学校が避難所になったことを想定した訓練】

芸濃中学校では、9 月 1 日に保護者、地域の方、消防署、消防団、日本赤十字社、警察の協力を得て、学校が避難所になったことを想定した訓練が行われました。

多くの小中学校は、避難所に指定されています。万が一の事態に備えて、地域との事前の相談や訓練が大切です。

中学生による近隣の保育園児の避難誘導

避難者の受付

消防団員の指導による応急手当

体育館にパーティションを設置しての地区別避難

日本赤十字社の協力による炊き出し（後方に地震体験車）

消防署員の指導による消火訓練

訓練をとおして得た気づきと改善

市内の小学校で、休憩時間に、緊急地震速報を用いた予告なしの避難訓練を実施したところ、グラウンドで遊んでいた 1 年生約 10 名が、速報を聞いて教室に帰ってきてしまいました。

事前指導では、グラウンドにいた場合は、校舎から離れてしゃがむことを指導してあったにもかかわらず・・・・。児童は突然の訓練で、教室へ行って机の下にもぐらなくてはと思ったようです。同じことは小学校区内にある幼稚園でもありました。

事後学習で、担任の先生が各児童の行動を確かめた上で、教室へ戻ることによる危険と、次の訓練では教室に戻らずグランドで避難することをていねいに指導しました。

また、高学年の児童は、グラウンドから教室へ戻ろうとする児童を引き止める行動が必要という気づきもあり、次の訓練に活かすことになりました。

課題が見つかる訓練は良い訓練と言われます。課題を見つけて改善することを繰り返すことで、子どもの安全確保がより確実になります。

リーフレット「取り組もう！災害から子どもの命を守る防災教育」
文部科学省　実践的防災教育総合支援事業
平成 25 年 2 月 20 日発行
発行者　津市教育委員会事務局　三重県教育委員会事務局
編集者　津市教育委員会事務局　〒514-8611　三重県津市西丸之内 23 番 1 号
TEL 059-229-3244（学校教育課）TEL 059-229-3293（教育研究支援課）